

令和7年度使用中学校用教科用図書（「教科名 音楽（器楽）」）の採択結果等について

広島大学附属三原中学校

種目	発行者	採択理由
音楽（器楽）	教育芸術社	<p>○基礎・基本の定着に関わって</p> <p>明確な学習観点のもと、幅広く変化に富んだ学習活動を行えるよう多様な教材が用意されており、意欲的に取り組めるよう適切にされている。また、音楽活動を通して、無理なく音楽を形作っている要素を捉えたり、それらを生かして表現や鑑賞の活動を進めていったりできるように工夫している。</p> <p>○主体的に学習に取り組む工夫に関わって</p> <p>音楽活動の経験や音楽科で得た知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集が配置されている。また、郷土の祭りや芸能など、音楽が生活や社会の中で果たしている役割に気づく学習活動を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫されている。</p> <p>○内容の構成・配列に関わって</p> <p>各楽器がバランスよく取り上げられており、それらを用いた楽曲についても過不足なく扱われている。全体を通して、過不足ない分量の教材が取り扱われ、各教材の学習内容が明確に示されるとともに、それに即した活動の具体的な手立てやヒントが分かりやすく適切に取り上げられるなど、目的に応じた扱い方の工夫がなされている。また、クラシック分野の曲のみではなく、日本の音楽や映画音楽、世界の音楽など幅広い楽曲の楽譜が掲載されている。</p> <p>○内容の表現・表記に関わって</p> <p>楽譜や文章の記述に誤りがなく、文字の大きさ、楽譜の線の太さ及び音符の大きさや形など、細部にわたって配慮がなされている。また、文章や楽譜の近くにイラストや写真の配置は、学習必要な情報に確実に着目することができるようにシンプルなデザインが採用されるなど、ユニバーサルデザインの視点をもって表記されている。</p> <p>○言語活動の充実に関わって</p> <p>知覚・感受したことをもとに思考、判断し、理解したことを言葉や音楽で表現できるよう、表現教材及び鑑賞教材において、譜例や図版、吹き出しを用いて説明されており、それらを活用することで、言語活動の充実を図ることができるよう工夫されている。また、音楽を形作っている要素を文字で示すことで、言語活動の充実を図っている。</p> <p>○本校の研究に関わって</p> <p>人が楽器を演奏するということについて、現在の社会やこれまでの歴史とのつながりを意識することができる記述により、音楽科の学習の知識・技能の定着だけでなく、音楽文化を探究していくことにより生涯にわたって音楽に親しみ続ける生徒の育成につながる。</p>